

一 有大長者の事

仰せに云はく、此の長者に於て天台大師三の長者を釈し玉へり。一には世間の長者、二には出世の長者、三には觀心の長者是なり。此の中に出世・觀心の長者を以て此の品の長者とせり。長者とは釈迦如来の事なり。觀心の長者の時は一切衆生なり。所詮法華經の行者は男女共に長者なり。文句の五に委しく釈せり。末法当今の長者と申すは、日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者なり。されば三の長者を釈する時、文句の五に云はく「二に位号を標するに三と為す。一は世間の長者、二は出世の長者、三は觀心の長者なり。世に十徳を備ふ。一には姓貴、二には位高、三には大富、四には威猛、五には智深、六には年耆、七には行淨、八には礼備、九には上歎、十には下歸なり」云云。又云はく「出世の長者は、仏は三世の真如實際の中より生ず。功成り道著はれて十号極り無し。法財万徳悉く皆具に満てり。十力雄猛にして魔を降し外を制す。一心の三智通達せずといふこと無し。早く正覚を成じて久遠なること斯くの若し。三業智に随って運動して失無し。仏の威儀を具して心大なること海の如し。十方種覺共に称譽する所なり。七種の方便而も来たつて依止す。是を出世の仏大長者と名づく。三に觀心とは、觀心の智実相より出生して仏家に在り。種性真正なり。三惑起こらず。未だ真を發こさずと雖も是如来の衣を著すれば寂滅忍と称す。三諦に一切の功德を含蔵す。正觀の慧、愛見を降伏し、中道双べ照して権実並びに明らかなり。久しく善根を積みて能く此の觀を修す。此の觀七方便の上に出でたり。此の觀心性を觀ずるを上定と名づくれば則ち三業過ち無し。歴縁対境するに威儀失無し。能く此くの如く觀ず、是深信解の相なり。諸仏皆歡喜して持法の者を歎美したまふ。天竜四部恭敬供養す。下の文に云はく、仏子是の地に住すれば則ち是仏受用したまひ、經行し及び坐臥したまはん。既に此の人を称して仏と為す。豈觀心の長者と名づけざらんや」と。此の釈分明に觀心の長者に十徳を具足すと釈せり。所謂引証の文に、分別功德品の則是仏受用の文を引けり。經文には仏子住此地とあり。此の字を是の字にうつせり。經行若坐臥の若を及の字にかへたり。又法師品の文を引けり。所詮仏子とは法華經の行者なり。此地とは実相の大地なり。經行若坐臥とは法華經の行者の四威儀の所作の振る舞ひ悉く仏の振る舞ひなり。我等衆生の振る舞ひの当体、仏のふるまひなり。此の当体のふるまいこそ長者なれ。仍って觀心の長者は我等凡夫なり。然れば末法当今の法華經の行者より外に觀心の長者無きなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者、無上宝聚不求自得の長者に非ずや。既称此人為仏の六字に心を留めて之を案ずべきなり云云。